

## 地域研究から政策研究へ ラオスでの経済政策研究に参加して

原 洋之介  
政策研究大学院大学

## 起 ラオスという国

人口希薄な内陸国山地世界

人口 600万人弱 一人当たりGNP 500ドル弱

面積 日本の本州程度 国土の約8割 山地

日本との比較でいえば人口5, 6万の農村経済

異なったエスニックグループの生態系ごとの棲み分け 生業・コミュニティの多様性

実質的にポウダーレス化しているラオス経済

地域的競争の中でのラオスの強さと弱さ

## ラオスの地理的特徴

ラオスは温帯と熱帯を跨ぐ位置にある。かつメコン川沿いの低地からアンナン山脈や中国・雲南省に続く北部山地まで、垂直分布に富んだ地形をもつ。

ラオス北部は、メコン川やその支流の小規模な山間盆地と山地からなる。

日本でいえば長野県か？

## 承 経済政策支援の経過と課題

2000年夏から2005年夏まで

ラオスと日本チームとの共同研究による政策研究

ベトナムへの政策支援との関連

ラオス側 国家経済研究所を核とし、関連省庁も含んだ研究チーム

ラオス2006-10年国家開発計画への投入  
2005年春から06年夏までのODA戦略会議でのラオス国別援助計画の策定

## 選ばれた課題

財政金融部門

財政赤字 銀行の資金仲介機能

インフラ整備のための特殊開発金融機関設立

中小企業育成部門

在来産業の改良

農業・農村開発部門

輸出競争力のある産品 香り米 子牛

北部ラオスでの農地・林地分配政策

経済統合部門

経済特区 外国投資法整備

## 転 経済開発研究の重要課題

市場経済の発達そのものが最大の 이슈

市場という仕組みを作り上げる

ターゲットと商人

山地世界での土地利用・所有の制度

市場経済の浸透とローカル・コモンスの管理

## 市場経済とコミュニティ

市場とコミュニティ 代替関係か補完関係か  
両者間の微妙な関係

市場経済とは  
取引の効率性を支える制度

コミュニティという非市場制度  
その内的構造・仕組みの多様性

## 市場取引網の形成者

タラットの商人  
行商人

タイの企業・商人の代理人  
ラオス企業 ビア・ラオ

## 北部ラオスでの焼畑農業

hai おもに陸稲を生産する焼畑

焼畑民は低地ラオではなく、山腹ラオ、高地ラオなど  
少数民族

150万人以上の人々が生存のために焼畑農業に依  
存している

焼畑包囲網の構築

生物多様性保護を名目として、土地を囲い込み、そ  
の土地への地元の人々のアクセスを禁止する方向  
現在国土面積の14%を占めている

## 土地森林分配事業

もうひとつは、より直接的に人々が焼畑に使える土地を制限する政策  
土地森林分配事業と呼ばれ、1996年に開始された  
村単位で土地が細かくゾーニングされる 水源涵養や森林資源保護のため  
に囲い込まれた土地へのアクセスは、その村の住民でさえ制限される  
焼畑用地も確保されるが、その規模は、毎年耕作する土地の3倍でしかない  
1作で場所を移動する焼畑の場合には、1年耕作、2年休閑焼畑サイクル  
をきわめて短くせざるをえない  
焼畑サイクルが短縮され、休閑期間が短くなった。そのため木本植生が十  
分に回復しないため、地力が劣化するとともに耕作時の雑草が増える  
その結果陸稲の収量が減少し、除草労力が増える

## 休閑地利用への影響

休閑地における非木材森林産物の採取は、焼畑民の  
生活や収入において大きな意味をもっていた

焼畑民は、長短さまざまな休閑林を生活空間にもつこ  
とで、自給自足的な生活を維持するとともに、カルダ  
モンや安息香などの市場価値の高い森林産物を販  
売することで現金収入をえてきていた

それが、休閑期間の短縮で、休閑地の植生にも変化  
が起り、採取できる非木材森林産物も変化して  
しまう つまり、焼畑民の生活を支えてきた貴重な  
現金収入源が絶たれる結果となっている

## 焼畑悪化シンドローム

人口増加、土地配分プログラムの厳格な履行  
による「焼畑休閑期間の短縮」

「土壌肥沃度の低下と雑草問題の増加」

「収量の減少」 貧困の増加と食糧の不安定化

「低収量を補うための作付け面積の拡大」

そして「焼畑休閑期間の更なる短縮」へ

『ラオス山地部の自然資源管理のための戦略  
と政策』のびゆく農業 968 ポンパリサク・  
プラウオンビエンカム 富田晋介訳

## ラオスに適した開発戦略 タマサート開発

各地域に現存する多様な農業、コテージ・インダストリーをベースにした個性を活かした開発

ラオスの自然条件を持続的に維持管理しうるような開発

一村一品型開発

## 結 政策研究のポイント

制度設計という政策研究課題へのアプローチ

フランス・フクヤマ『ステート・ビルディング—二一世紀におけるガバナンスと世界秩序』コーネル大学出版2004年

下村恭民編著『アジアのガバナンス』有斐社2006年

1. 世界基準が適用可能な領域。取引される財・サービスの種類が限られた専門性の高い活動。限られたマクロ経済変数の管理をおこなう中央銀行の金融政策。経済理論がそのまま適用可能な領域。
2. ローカリティが高い領域。取引される財・サービスの種類が多い専門性の低い活動である。個別ケース毎に特殊情報の収集や判断が必要となる「法の執行」、地域に分散せざるをえない初等教育や保健サービス。これらの活動においては、状況・文脈にスペシフィックな暗黙知が不可欠になってくる。つまり、地域研究的アプローチが不可欠な領域。

ローカルな知恵・仕組みを壊さないことの重要性

## ギアツの提言

クリフォード・ギアツ『行人と王子達』より

経済発展に対する共同体研究によるアプローチは、発展途上国における経済計画を、その特徴である硬直的で先験的、極端に理論的で半ば教条的なアプローチから、より实际的で具体的かつ現実的なアプローチへと方向転換させる上で役立つはず。すなわち、経済学的また社会学的な一般原理を、政策がそこから論理的に演繹されるような公準としてではなく、政策がそこに基づくべき個別の事例を解釈するための導きとして用いるようなアプローチへの方向転換です。